

○計画策定を進める体制について

流域委員会、地域懇談会（総称）、行政連絡会議（仮称）とが独立しつつ、うまく連携しながら計画を策定していくことが確認されました。

当面の方法として、河川管理者が情報の共有化を担い、流域委員会が中心となって連携を図っていくという議論が交わされました。



（流域委員会に係る組織体制に関する意見）

- ・流域委員会と地域懇談会（総称）と行政連絡会議（仮称）は、3者独立であって、互いに従属するものではないという点は賛成です。独立で動く場合の情報のやりとりの方法を教えてください。

（河川整備計画決定までの流れに関する意見）

- ・河川整備計画決定までの流れのフロー図で、基本方針と整備計画が横並びで描かれているのは、どのようにイメージすればよいのでしょうか。



（地域懇談会に関する意見）

- ・地域懇談会の意見のフィードバックは河川管理者が行うということですが、できればファシリテーター的な人を一般の方の中から選び、市民でまとめてもらうのがいいと思います。

（地域懇談会に関する意見）

- ・ぜひ下流から上流まで全流域の方が一堂に会して意見交換するような場をつくっていただきたいです。

（委員長意見）

- ・当面は河川管理者が、お互いの情報がスムーズに流れるよう努力していただきたい。3者で情報の流れがスムーズでない時には流域委員会が指摘することもやっていきたい。そういう意味で、連携のリーダーシップは、しばらくは流域委員会がとらなければならないと考えます。
- ・基本方針と整備計画が横並びなのは、法的に認知されたものがその辺りで決まるということで、時間的に同じという意味ではなく、最終的に基本方針、整備計画という形で出るということです。



阿部委員



松尾副委員長

○計画の枠組みと策定の流れについて

基本方針及び整備計画の策定の流れについて議論が交わされました。



（流域委員会の議論の流れに関する意見）

- ・議論の流れは、総合的に進めるのではなくて、例えば、治水と環境と利水を分けて進めるとか、上流と下流と分けて進めるとか、その点はどのような考えでしょうか。

（流域委員会の議論の流れに関する意見）

- ・議論の流れを示したフロー図の中に「基本方針の原案に沿った河川整備計画目標の討議」という記述がありますが、この基本方針の原案についてどこかで議論するという意味でしょうか。それともこの討議の中に原案の討議のようなものが入っているという意味合いでしょうか。



柴田委員



（委員長意見）

- ・総合的に議論することの重要性は認識しながらも、機能別、地域別の議論から入るを得ないと思います。
- ・基本方針の素案が示されたもとで整備計画について議論する形です。

○土岐川庄内川の現状と課題

土岐川庄内川の現状と課題について確認しました。今回の意見を踏まえて、今後の議論の対象について詳細化を図っていくことになりました。



（現状と課題に関する意見）

- ・この資料には、支川との関係がほとんど触れられていないので、支川とのかかわりをもう少しインプットする必要があると感じました。

（現状と課題に関する意見）

- ・木曾川導水事業が中止になっており、その点も十分考慮の上、整備計画を立てていかなければいけないと思います。



（現状と課題に関する意見）

- ・治水では、計画規模等の数字に幅や確率があり、その点がわかりにくいので、その辺の根拠を示していただきたいです。また、利水や環境はそう悪いイメージがなく、治水だけの問題点でいいように思えました。

（現状と課題に関する意見）

- ・治水で防災情報のシステムについても、もう少し詳細な報告をしていただいて、議論したいです。



石川委員



（現状と課題に関する意見）

- ・情報システムの話は、恐らく治水の枠の中での話になると思います。どこまでハードで守って、どこからソフトで守るのかというようなところの中での話になってくると思うので、大変重要な議論だという認識を持っています。



小菅委員

河川整備計画策定までの流れ

